

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業知っておきたい話」—147回—(2面)
- ・飼料物価指数 135超が3年以上 (3面)
- ・日本三大開拓地で小学生交流(宮崎) (4面)
- ・勝間田開拓茶農協が展示会出展(東京) (5面)
- ・「四変」の対処方法 (6面)
- ・25年畜産統計(農水省) (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
公益社団法人全国開拓振興協会
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
TEL 03-6268-9995
FAX 03-6268-9996
ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

適正な価格を決めるために

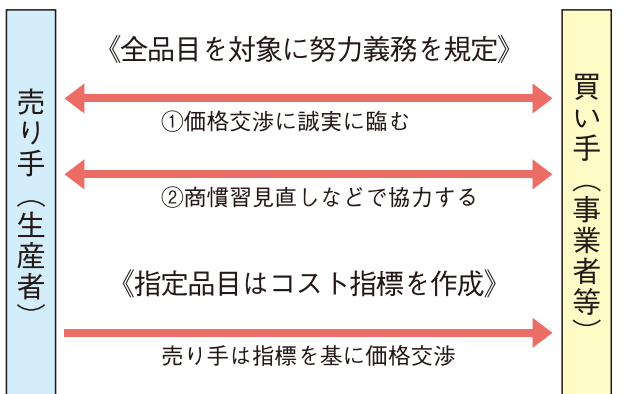
食料システム法でコストを明確に

「食品等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律及び卸売市場法の一部を改正する法律」が6月11日、成立した。これにより「食品等の持続的な供給を実現するための食品等事業者による事業活動の促進及び食品等の取引の適正化に関する法律」(食料システム法)に基づき、合理的な生産費用を考慮した価格形成等により、食料の持続的な供給ができる食料システムを確立する。

今回の改正では、価格の意見をくみ取ることができるとして国が認定する。指標は公表の努力義務を明確にし、取り組みが不十分な事業者等に対しては、国が指導や勧告などを行う(国務院基準)を省令で明確化する。これらの取り組みが不十分な場合、公正取引委員会への通知などを行う。

この食料システム法に關する地方説明会が7月8月にかけて各地で開催され、「経営規模により業は小学校の教員。引率先で偶然、飛行機のテストフライトに遭遇。その後、幼少期からの夢だった、東京の第一飛行学校へ入学。愛知県の安藤飛行機研究所へも転入し、33(昭和8)年、日本人女性初の水上飛行機の二等飛行機操縦士免許を取

図 法施行後の価格形成のイメージ



「夏が来れば思い出す」はるかな尾瀬



尾瀬国立公園は、群馬・福島・栃木・新潟の4県にまたがっている。本州最大の高層湿原である尾瀬ヶ原や周辺の山々が織りなす美しい風景が特徴だ。代表的なミズバシヨウをはじめ、季節ごとに多くの動植物が見られる。ちなみに、ミズバシヨウの見頃は5月末から6月上旬頃で、歌通りの夏ではないのでご注意ください。

日本初の女性パイロットは開拓者

西崎キクと埼玉県の女性偉人たち

76年(昭和51)年に放送されたNHKの朝ドラ「雲のじゅうたん」のモデル・西崎キクさん(旧・郷土資料館で開催されている「西崎キクと埼玉

県的女性偉人たち」展では、埼玉県出身の女性の3名の偉業が紹介されている。◇キクさんの最初の職業は小学校の教員。引率先で偶然、飛行機のテストフライトに遭遇。その後、幼少期からの夢だった、東京の第一飛行学校へ入学。愛知県の安藤飛行機研究所へも転入し、33(昭和8)年、日本人女性初の水上飛行機の二

ため、飛行士としてのキャリアを断念。満蒙開拓団に参加し、家族との死別など数多の困難の中、故郷に帰国。教員をしながら、48(昭和23)年、七木村(現在の土山町大字七木村)に戦後開拓として入植した。

様々な作物に挑戦し、大根、白菜、スイカ、メロンなどを栽培。酸性土壌で上手く育たない中、様々な工夫で困難を乗り越えた。61(昭和36)年には、その成果をまとめた論文「酸性土壌に生きる」を発表。スイカと大根は彼女が所属した見玉

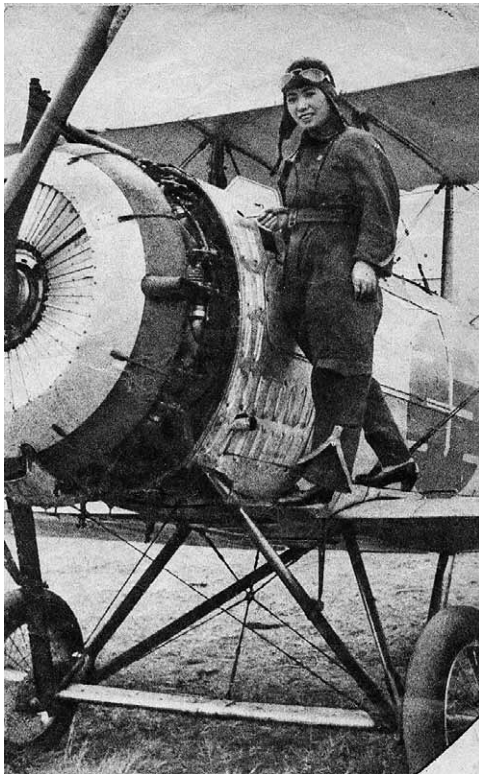
また、このほど佐賀和牛の海外での差別化や供給価格の安定化、トレーサビリティの確立した日本ブランドを守るため「佐賀和牛輸出協議会」が発足。

ゼンカイミート(株)輸出再開

佐賀「和牛びより」がタイへ

7月24日、全開連西日本支所において(株)一瀬ト(株)を通じて、新工場が畜産主権の「タイ向け佐賀和牛を輸出するの

今回、佐賀県開拓畜産事業協同組合が全開連に出荷した、佐賀県産和牛「和牛びより」8頭フルセットを(株)一瀬畜産が購入し、それを(株)WAGYU JAPANがタイに輸出する。



上:サルムソン機の翼上に立つキク氏
下:展示会の様子。中央は飛行機模型

◇開戦により、飛行機が自由に往來できなくなった。女性初の海外飛行の偉業を成し遂げた。その功績から、国際航空連盟より「ハーモン・トロフィー賞」が贈られ、後には終身会員賞を受賞した。



その後、テブカットが行われ、トラックがタイに向けて出発した。

食料農業
知っておきたい話

第147回

日米関税交渉の評価で見落とされている視点

東京大学大学院特任教授・名誉教授 鈴木宣弘氏



トランプ関税に対処した日米交渉の結果について、よく頑張ったとの評価もあるが、冷静に見ておく必要がある点が多い。

★輸入米しかないというストーリー

「令和の米騒動」への対応では、随意契約米による価格破壊を進める一方で、稲作農家を支えて生産振興する対策は出されずに、生産現場の不安を放置したまま、備蓄米も使い果たし、次は輸入しかないというストーリーがつくられていたかのように見える。

トランプ大統領にも、

つとコメを輸入しろと言われ、自動車を守るにはコメを出すしかないかのように、譲ってはならない最後のカードであるコメまでが差し出されるストーリーだ。「盗人に追いつかれた狼」の如く、脱で消えたのだから突っぱねればよいのに、それをどう実現するか、必死に検討してきた。その結果、77万t（最低輸入義務ではない）の輸入枠外ではなく、枠内で米国の輸入を現在の「密約」の35万t前後から75%程度増やして60万tに、更に25万tも増やすという。主食用の10万tを除いた残り67万tのうち60万tが米国産という異常な「差別待遇」になる。タイや豪州や中国などの他の国のアクセス枠は7万tしかない。

★7万tどころか25万t増に

★文書に残せない「密約」

しかも、当初から77万tのうち約半分の35万t前後は米国から必ず買うと約束していたが、多国籍の約束の中に、米国だけを優遇する約束はWTO違反になるので、文書にも残さず、「そんな約束はない」と頑なに言い続けてきた。

その「密約」35万tへのの上乗せという形になり、密約があったことも白日の下にさらされた。

さらに、主食用の輸入米の前倒し投入だけでなく、その他の輸入米も増やして国内の備蓄米に回し、徹底的に国内市場をジャブジャブにしようとしている。ほぼ使い果たした備蓄米は、本来、国産の新米で補充するのが当たり前で、その契約も進んでいたのに、その契約を凍結して、輸入米で備蓄を補充する準備がされているのではないか。

★国産米に影響がないわけがない

米国からの輸入米が店頭には並ばなくとも備蓄に

農産物輸出額14%増

25年上半期 農林水産物輸出実績

農水省は8月4日、25年上半期（1～6月）における農林水産物・食品の輸出実績について公表した。農産物（加工食品

品目別では、緑茶が同

65・3%増の263億円

品目	金額(百万円)	前年同期比
畜産物	54,394	9.4
牛肉	32,572	15.5
豚肉	1,337	28.3
牛乳・乳製品	15,748	▲1.2
米	6,775	22.6
リンゴ	4,740	▲27.6
イチゴ	5,300	22.2
カンキツ	623	▲18.0
緑茶	26,295	65.3
加工食品	278,468	8.5
農産物計	523,143	14.4
林産物計	37,082	17.7
水産物計	199,445	20.1
農林水産物・食品計	809,700	15.5

と、前年より大きな伸びを示した。これは、欧米での日本食ブームが続いていることや、スイーツ等の原料になる抹茶を含む粉末状茶を中心に増加したとみられる。

米も日本食への人気や単価上昇により同22・6%増の68億となった。

畜産では、牛肉が同15・5%増の326億円となった。これは、台湾、タイ向けが外食や小売を中心に、新規開拓されたことによる増加とみられる。

豚肉は、前年は減少した

が要因とみられる。

農林水産物・食品全体としては、同15・5%増の8097億円となった。これは、中国及び香港向けの水産物輸出が激

回せば、その分、国産米が備蓄に回せなくなるから、国産の主食米市場を圧迫することになる。こんなことをしていたら、本国内でコメをつくる農家はなくなる。

ただでさえ、ここ5年でコメを作る人はいなくなるという地域が続出している中で、今の流れは、それを一気に加速してしまっ「地獄」への道だ。

★拡大される「尻拭い」

さらに、第一次トランプ政権では、中国が米国との約束を反故にした300万tのトウモロコシまで「尻拭い」で買わされた。日本側は、「尻拭い」とは国内向けには言えないので、蛾の幼虫の被害のためにトウモロコシ

シを追加購入しないといけなくなった、と虚偽の説明を展開した。

今回は、最初から、トウモロコシに加えて大豆も「尻拭い」で買うことを認めている。国産トウモロコシや大豆の増産方針に背くことにもなる。

★自動車も失った

加えて、自動車についても、TPPで日本車への2・5%の関税を撤廃する約束になっていたのを米国に反故にされたが、第一次トランプ政権の2国間交渉で、日本は「米国が2・5%を撤廃すると約束した」と虚偽の説明をして、牛肉や豚肉の大幅な関税削減を行う「二国間協定を国会承認した。あとで、やはり、2・5%の関税は撤廃され

なかったことはバレた。しかし、今回は2・5%どころか、それを15%まで引き上げられたのだから、とんでもない失敗なのであり、25%を引き下げてもらってよかったと言っている場合ではない。しかも、「何でも差し出すから許して」の外交は、「脅せば日本はもつと出す」と当然の如く足元を見られ、25%をちらつかせて、脅され、ゆすられ続けることになる。

★気になる乳製品

前回のトランプ政権での日米貿易協定で、日本は「米国が2・5%を撤廃は、牛肉（関税の大幅引下げと緊急輸入制限措置の無効化）と豚肉（実質ゼロ関税）を譲り、米国側がTPPで日本に約束していた牛肉関税撤廃は

約91万人（0・75%）の減少となった（図1）。09年の1億2708万人をピークに減少が続いており、今年で11年連続の減。減少数・減少率とも過去最大となった。

出生者数も減少傾向が続いており、24年は68・8万人と、初めて70万人を割ることとなった。

反対に、死亡者数が年々増加しており、05年に逆転して以来、常に死亡者数が出生者数を上回っている（図2）。

日本人の人口を都道府県別に見ると、東京都だけが2年連続で増加しているが、他の46道府県は前年より35万人（10・7%）増となった。

一方、外国人の人口は、コロナ禍後の23年以降増加しており、25年は約368万人となっており、前年より35万人（10・7%）増となった。

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

日本人の人口91万人減

総務省 外国人は35万人増

総務省は8月6日、住民基本台帳に基づく25年1月1日現在の人口を発表した。日本人の人口は1億2065万人で、前年より

出生者数も減少傾向が続いており、24年は68・8万人と、初めて70万人を割ることとなった。

反対に、死亡者数が年々増加しており、05年に逆転して以来、常に死亡者数が出生者数を上回っている（図2）。

日本人の人口を都道府県別に見ると、東京都だけが2年連続で増加しているが、他の46道府県は前年より35万人（10・7%）増となった。

一方、外国人の人口は、コロナ禍後の23年以降増加しており、25年は約368万人となっており、前年より35万人（10・7%）増となった。

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

図1 日本人人口の推移

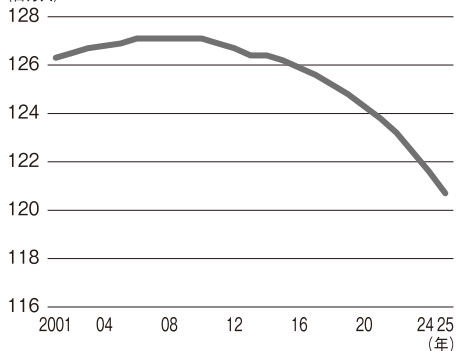
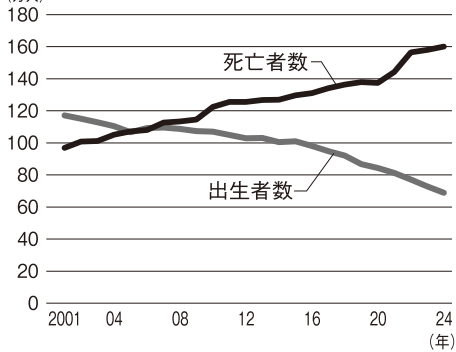


図2 出生者数、死亡者数の推移



全開運人事

(7月31日付)

退職 門脇恵太(東日本支所東京事業所)

(8月1日付)

▽西日本支所支所長代理(西日本支所福岡事業所支所長代理) 田中駿之介

開拓組織の動き

9月に予定されている開拓組織の主な行事は次のとおり。

9月

6日 岩手花平農協乳牛共進会

8日 全開運理事会・監事会

全日本開拓者連盟中央常任委員会

12日 薩州開拓農協通常総会

19日 九州開拓青年部校肉共進会(熊本)

24日 ㈱全日本農協畜産公社臨時株主総会(東京)

農業（畜産）物価指数（20年を基準）

飼料の価格指数は、23年から緩やかに下降傾向ではあるが、今年に入ってから140前後で高止まっている。今後も大

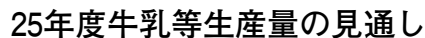
対して、農産物価格指数のうち、畜産の枝肉価格について見ると、肉用牛交雑種価格指数は100～110付近にとどま

も、価格が高止まっているので、昨年1月から1度も変動されていない。飼料など資材費高騰による畜産経営への圧迫は、

資材費が高止
まっ、農産物

配合基金制度
の改革も、販売

価格の形成も、
いずれも先延ばし
できない、今
すぐに対処しな
ければならな
い、最重要な課
題だ。



(Jミルクの資料から)

「Jミルク」生乳・乳製品の需給見通し

Ｊミルクは８月１日、
25年度の生乳・牛乳乳製
品の需給について、3回
目の見通しを発表した。
全国の生乳生産量は7
35万3千t（前年比0
・7％減）で、前回の見
通し（5月）から1万8
千t上方修正した。これ
は、北海道が2年連続の
増産となることを見込ん
でいる。しかし、猛暑の

影響が懸念される。

一方、牛乳等（注）生産量は、牛乳が304万0千ℓ（同1・0％減）、加工乳13万9千ℓ（同5・7％減）、はつ酵乳103万8千ℓ（同0・2％減）などとなっている（表）。牛乳は、前回より6千ℓ下方修正された。これは、牛乳取引価

牛乳等生産量は、全ての品目で前年を下回る見込みとなっている。8月からの価格改定からの影響は否めない。改めて、消費者に向けて適正価格をアピールすることが重要となる。

8月初旬のスーパーでの小売価格を見ると、先月より10～20円／ℓ程値

格改定となる8月以降は上がりしている牛乳が見
需要がさらに減少すると受けられた。
(注：当見通しにおいて

脱脂乳の需給見通しは、生産量が15万8千t（同2・1%増）、推定出回り量が12万9千t（同34・3%減）で、期末在庫量が8万1千t（同56・4%増）と、大きく前年を上回る見込み。

は、牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の4品合計を「牛乳類」とし、「牛乳類」にはつ酵乳を加えたものを「牛乳等」としている。なお、牛乳等の製造量に需要量として捉えられる。）

24／25年産需給見通し公表見送り

今年5月の基本指針で示された24／25年の主食用米等の需給見通しで

は、需要量は674万tであつたが、今回、現時点でわかつてゐる値として示された需要量は71などの意見が出た。

1万tで、37万t多くなっている（表参照）。この数量は、調査で確定した24年産の收穫量と、民間在庫の数量から試算されたものだ。

同省は、大幅な上振れは2年連続で、需要量の見通しが実態との差が生じているので、内容を精査したうえで、改めて見直しを公表する方針。

(農水省の資料より)

農水省は7月18日、25年産の水田における主食用米・戦略作物等の作付け意向について、都道府県別の第3回中間的取り組み状況（25年6月末時点）を公表した。

主食用米の作付け意向は、多くの県が「増加傾向」となった。

「増加傾向」が増えた要因として、主食用米が従来の需要量より大幅に少なく、小売価格が高騰していることが挙げられる。

3千^{ha}で、玄米に換算すると735万tとなり、前年より56万t増加するとみられる（表参照）。これに対し、戦略作物のうち、飼料用米は前年実績より「減少傾向」となる県が大半を占めることとなった。合計の作付け面積が4・9万^{ha}で、前年の半分となっている。

農水省は7月18日、24年度の「チーズの需給表」を公表した。

生産量は、国内産ナチユラルチーズは4万5千t（前年比0・5%増）と、わずかではあるが前ナチユラルチーズ輸入

・8%増、プロセスチーズ消費量が同1・4%増。

チーズ総消費量に占める国産の割合は、前年度から0・5%減の14・8%となった。

WCS用稲(稲発酵粗飼料用稲)も、飼料用米ほどではないが、7千ha減少する見込み。令和になつてから初めての減少となる。	年を上回つた。このうち、プロセスチーズ原料用は同2・6%減、プロセス原料料以外は同3・9%増となつた。
飼料用の稲が減少することで、畜産業界にかなりの影響が懸念される。	総量は、25万3千t(同4・0%増)と、5年振りの増加となつた。
	牛乳の需給緩和対策として、国産チーズの消費拡大は欠かせない。そのためには、さらなる高品質な国産チーズ生産体制の構築が重要となる。

チーズ消費量5年振増

24年度 チーズの需給表

農水省は7月18日、24・8%増、プロセスチーズ消費量が同1・4%増。チーズ総消費量に占め

生産量は、国内産ナチ
ュラルチーズは4万5千
t(前年比0・5%増)から0・5割減の14・8%となった。

日本三大開拓地小学生交流事業を開催

3 市町の子どもたちが交流

入植者の多さなどが、昨年の矢吹町での開
終えた。参加児童はお互
らの、青森県十和田市、福 催から再開した。
いの発表などを通して元

◆今年、3市町から
 氣に交流を深めた。

町の3市町は、「日本三大開拓地」と呼ばれている。この3市町の間で行われてきた「日本三大開拓地小学生交流事業」が、7月20日〜8月1日に宮崎県川南町で開催された。

計42名の小学生が参加。メインイベントである学習会の「わがまち紹介」では、各市町の児童がそれぞれの町の紹介を行い、理解を深め合った。また、戦後開拓についての講話では、川南町を指す。戦前の地区名は、

◆「日本三大開拓地」とは、戦前から国営の大規模な開拓地として開墾が予定されていた地域のうち、戦後に計画が引き継がれ開拓が軌道に乗った500町歩以上の地域を指す。戦前の地区名は、

◆同事業は3市町の持ち回りで毎年開催されており、それぞれの町から小学生が参加して開拓の歴史の学習や自然・スポ

在住の元教師で、地域の歴史に詳しい平塚金治氏ひらつかきんじが、川南町が開拓地となった経緯やその後の歴史について講話を行った。

三本木原（現…十和田市）、矢吹ヶ原（矢吹町）、川南原（川南町）だった。戦前から予定地になっていたため規模が大き

ーツ体験、文化施設の見学を通じて、地域間の交流を深めている。20年度以降はコロナ禍の影響により事業を中止していた。

◆西都原考古博物館の見学や勾玉づくりの体験、高千穂峽・天岩戸神社の見学などが行われ、3泊4日の交流を無事に占めている。

く、他県からの入植者も多くことが特徴。今年の開催地の川南町は現在も町の40%を森林と農用地が占めている。

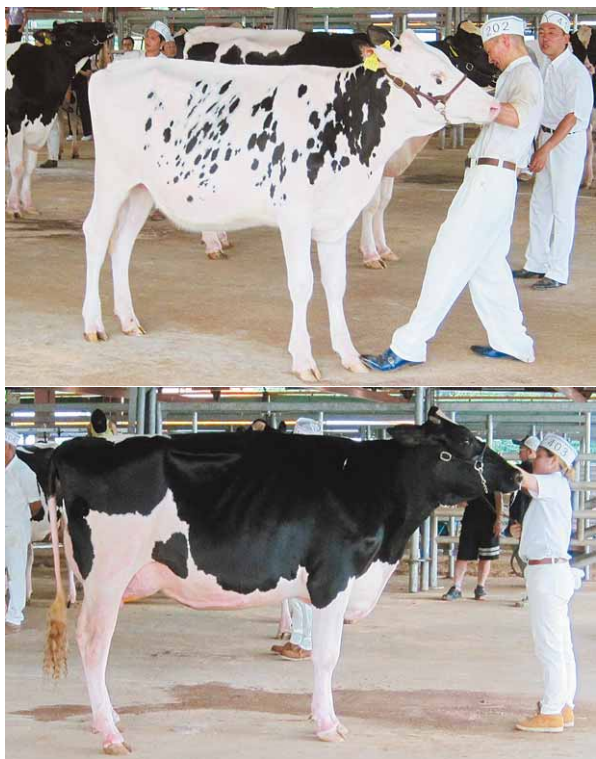
未経産牛 馬場新音氏
経産牛 サウザンドリーフ

ゆうぎ青森農協は7月18日、上北郡七戸町の県家畜市場で、第12回畜産を競った。

共進会を開催した。今年も肉用牛の部と乳用牛の部（未經産牛部門と経産牛部門）の3部門で審査が行われた。

審査の結果、肉用牛の部では古内忠明さん（七戸町）の出品牛がグランドチャンピオンを受賞。乳用牛の部は、未經産牛

肉用牛の部には黒毛和種若雌・繁殖雌24頭、乳用牛の部にはホルスタイン種未経産牛19頭、経産市)の出品牛がグラウンド



乳用牛の部Gチャンピオン牛。上：未経産・下：経産

チャンピオンに輝いた。初めての受賞。(株)サウザランドチャンピオン受賞
古内さんと馬場さんは
ンドリーフは4度目のグ
となった。



写真提供：川南町教育委員会

国産チーズスターターの現状を報告

ワークショップを開催

（公財）日本乳業技術協会は、6月に東京で、7月2日に北海道（札幌）で、それぞれオンライン協会は、6月に東京で、7月2日に北海道（札幌）で、それぞれオンライン

について発表を行った。また、現地開催の会場では、試作したチーズの試食が行われた。

ツツ風味が強く、完了品にはコーヒースの風味が出た等の報告があった。

▽硬質系チーズへの活

と現地で「25年度国産ナチュラルチーズ高付加価値化推進チーズ工房ワークショップ」を開催した。「国産ナチュラルチーズでは、対照区と比べると報告があった。▽消費者型官能評価で高評価が多い、どんなに株「OUT0010」に用が期待されるとさん株「P17」は、複数の工房でチーズにバターのような風味が現れたとす報告があった。

ズ高付加価値化推進事業（以下、同事業）に参加したチーズ工房が、国産4種のチーズスターター（どさんこ株3種、とちぎ株1種）を使って作ったチーズの感想や課題は熟成期間の中期ではナベであっさりしており、旨みが強かった」などの報告があった。

▽ナッツ風味が香るチーズができるとの報告が多いどさんこ株「33―5」は、入れ方によりチーズのテクスチャ（食感）に影響が出やすいなどの報告があった。

▽地場産漬物から生ま

五

口蹄疫からの見事な復活

宮崎県高鍋町・牛牧開拓



宮崎県児湯郡高鍋町は
県中央部の海沿いの町だ
が、牛牧^{うしぼ}開拓は町の西部
の高台にある。

47年に海外からの引揚
者や復員軍人など31戸が
入植した。

この地は、高台地にあ
り、大部分が開畑されて
いた中で、町有林、民有
林として残存していた場
所を、開拓適地として買
収した。1戸当たりの配
分面積は0・8～1haと
なっていた。

当初は夏作としてサツ
マイモ、陸稲、冬作とし
て麦、なたねを作付けし
ていたが、収益の向上を
図るため、55年頃からサ
ツマイモの早植えを行う
ことで次第に夏作型の作
付けに移行していった。

また、牛牧地区では養
蚕が導入され、営農の進
展が図られてきた。

なお、同事業は、チーズジの「2025年度の参加案内」の下の「製造などの補助を受けることが出来る。同協会ホームページへ、申し込みができる。」

この間、徐々にではあるが、肥育牛の生産が着実に伸びていった。66年に生産体系が確立された開拓牛（乳用種去勢牛）の生産も広がっていった。

振りの口蹄疫が発生してしまった。消毒等の防疫体制を執っていても侵入され、宮崎県内で約30万頭の牛や豚等が殺処分となった。

宮崎県乳用生肥育事業 高鍋町の開拓肉牛農家
農業協同組合が72年に設
立され、1県1単協の広
域専門組織として新たな
船出となった。

3戸の3588頭も、全
頭いなくなってしまう
た。牛のいない牛舎で、
消毒作業を毎日こなすの

80年に「開拓之碑」が入植者らによって建てられた。辛い時でも皆の励まは、当事者以外には到底わからない苦痛であろう。

まし合いで、未来ある新天地となったこの牛牧開拓を讀んでいる。

90年代になると、交雑種肥育牛や和牛の生産も

しかし、3農家は決して諦めなかった。共に励まし合いながら、着実に復活への道を歩んでいった。これは、先人からの

開拓魂を受け継いできた
 様々な品種で肉牛生産
 証だ。
 現在では、牛舎には元
 010年、宮崎県で10年
 気な牛達の姿がある。



写真提供：(公財)日本乳業技術協会

東京ビッグサイトに出展試飲でPR 勝間田開拓茶農協(静岡)

勝間田開拓茶農協(静岡県牧之原市)は、7月16～18日に東京ビッグサイトで開催された「CAFERES JAPAN2025」に出展した。



「花こち」と「花つづみ」

同展示会は、カフェ、ベーカリー、スイーツ業界に関わるあらゆる食材や調理機器、サービスなどを提供する企業が、世界中から出展する日本最大級の展示会で、3日間で4万4427名が来場した。同農協は、牧之原市茶業振興協議会のブースの一角で、オリジナルブランドの香り緑茶「花こち」と「花つづみ」の展示と試飲で、来場者にアピールした。

香り緑茶は、見た目は普通の緑茶だが、一般の緑茶



勝間田開拓茶農協のブース(左側)

製造では行わない「萎凋」という、香りを引き出す工程を加えている。茶葉の水分を徐々に抜き、傷つけないようにゆっくり刺激を与えることで、茶葉の中が活性化され、花のような香りを引き出している。普通煎茶、深蒸し煎

茶に次ぐ、第三の煎茶として開発された。

記者も試飲させてもらったが、花のような良い香りがして、深い味わいの煎茶だった。今後、新たな商品として、盛り上がりが期待される。

有機質資材の肥効見える化アプリ 新機能追加でリニューアル

農研機構は6月、「有機質資材肥効見える化アプリ(畑・水田版)」を開発し、ウェブサイト公開した(図)。同アプリは、「有機質資材の肥効見える化アプリ」(21年5月公開)のリニューアル版となっている。

今回のアプリでは、①水田版の追加、②リン酸・カリ肥効予測機能の追加、③計算に必要な資材特性値の自動入力機能(手入力による上書きも可能)の3点の機能が拡張された。同機構は、生産者や関係者がアプリを利用することで、家畜ふん堆肥や植物油かすなどの有機質資材からの養分(窒素、リン酸、カリ)供給量が見える化できるようになり、適正な施肥計画や化学肥料使用量の低減を図ることができる。

熊本県内のレタス栽培は場で実施した、減化学肥料栽培にアプリを用いた実証試験では、化学肥料使用量を54%低減、施肥コストを22%低減しながらも、化学肥料区と同等の収量が得られた。また、東北・九州での有機水稲の実証試験では、アプリの予測に基づく



アプリの出力画面(水田版の例)

農研機構の資料から

施肥で有機質資材からの養分供給が改善され、玄米収量が増加する結果となった。

同アプリは、「日本土壌インベントリー土壌管理アプリ集」と検索するか、QRコードからアクセスすることで誰でも利用できる。



スマートフォンをお持ちの方は
こちらから

ナガエツルノゲイトウ防除マニュアル 水稲栽培の厄介者を撃退

ナガエツルノゲイトウ(以下、同草)は南米原産の特定外来生物で、河川や水路、水田などに侵入・定着している。近年、東北以南の水稲作で問題になっており、侵入した水田での早期防除と分布拡大防止対策が求められている。

農研機構は、6月24日に「水稲移植栽培における除草剤体系処理によるナガエツルノゲイトウ防除技術標準作業手順書」を公開した。難防除外来雑草である同草の防除のため、水稲移植栽培を行う水田における防除技術の作業手順を解説している。

同草は、24年までに26都府県で侵入・定着が報告されている。環境適応力



ナガエツルノゲイトウの外観
写真は農研機構の同手順書から

・繁殖力・拡散力・再生力の高さから、一度定着すると根絶が非常に難しい。河川で大群落を形成するだけでなく、農地周辺では水路やため池に繁茂し、農業水利施設の機能を損なわせる。水田に侵入すると、慣行の除草剤散布では防除が難しく、水稲と競合したり、コンバインによる収穫作業を妨げる。

手順書では、同草が発生した千葉県と神奈川県での試験結果を基に、主に関東以西における、水稲移植栽培を行う水田での防除技術の作業手順をまとめている。

なお、水稲直播栽培では、使用可能な除草剤が移植栽培とは異なるため、同手順書は利用できない。

手順書は、URL (<https://sop.naro.go.jp/document/detail/186>) またはQRコードからアクセスし、ログインまたは利用者登録を行うことで、誰でも閲覧することが出来る。



スマートフォンをお持ちの方は
こちらから

ブドウ新品種「サニーハート」 皮ごと食べられる新需要に期待

ける開花期は巨峰と同時期。収穫期は8月下旬から9月上旬で、両種より遅い。果粒の外観は、果皮が安芸クイーンより濃厚に着色する赤～紫赤色で、果粒側面から果頂部にかけて生じるくぼみがハート型を連想させる特徴的な果形をしており、裂果の発生が少ない。

渋味が無いため皮ごと食べられ、果汁濃度は約20%と、安芸クイーンや巨

峰より高い。果肉はやや硬めで噛み切りやすいため、食味良好。マスカット香が混じるフローラルな香りで、従来品種とは異なる独自の風味を持つ。

同機構によると、サニーハートは全国の水稲栽培地帯で栽培可能であり、主要品種とは外観と食味が異なるため、皮ごと食べられる新品種として全国的な普及が期待されている。



「サニーハート」の果実
農研機構の資料から

おいしくて皮ごと食べられるシャインマスカットが好評だが、最近は皮ごと食べられて、外観や食味がシャインとは異なる品種も求められている。

農研機構は、皮ごと食べられる果皮の赤いブドウ新品種「サニーハート」を育成した。食味が良好で噛み切りやすい果肉を持つ育成系統「626-84」にシャインマスカットを交雑して選抜し、25年3月に品種登録された。

樹勢は、赤色品種の中で普及している安芸クイーンより強く、育成地にお

「草を食べてから配合飼料」を徹底 第四胃変位の予防と対策

牛の手術で最も多いのは、第四胃変位の手術である。牛にとって身近な病気のため、原因や予防策などを確認したい。

◇第四胃変位が起こる仕組み

第四胃変位(以下、「四変^{よへん}」)とは、牛の第四胃が正常な位置から動いてしまう病気。胃の内容物の流れが阻害され、食欲不振や下痢などの症状が出る。原因は主に以下の3つである。

①**第四胃が動くスペースがある**：腹の中に大きなスペースが空くことが原因の1つであるため、分娩後に罹る牛が多い。特に乾乳期によく食い込めなかった牛は第一胃が小さい上に腹にスペースが空くため、一段と罹りやすくなる。また、蹄病などで十分にエサを食い込めず第一胃が小さくなっている場合も、腹の中のスペースが大きいいため罹りやすくなる。

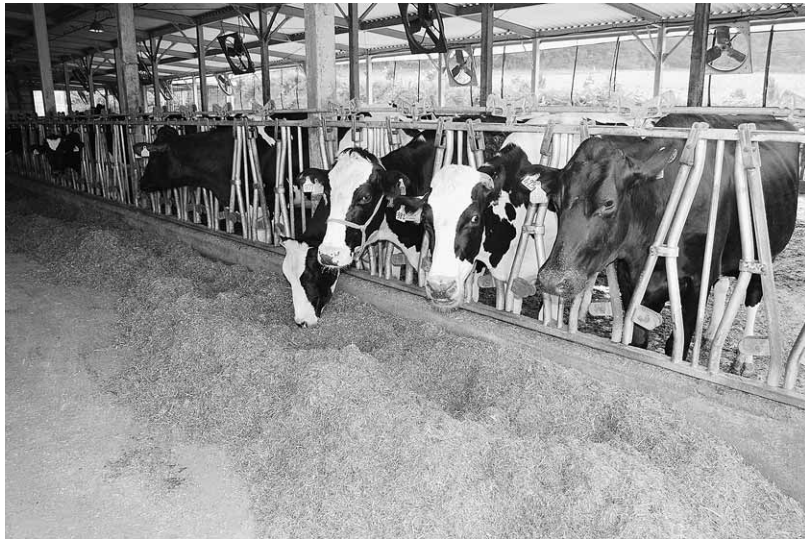
②**第四胃の運動性低下と弛緩**：第四胃の運動にはカルシウムが関与している。そのため、低カルシウム血症により第四胃の運動性が低くなり、送り出されるはずのガスや内容物が滞り、第四胃の弛緩(のびること)が起こる。

③**ガスの発生や蓄積**：第四胃に十分に消化されていないものや、特に濃厚飼料が流れ込むことでガスが発生する。そのため、粗飼料と濃厚飼料のバランスが悪かったり選び食いがあると罹りやすい。足が痛くて起立や歩行が困難な牛も、空腹を我慢して一気に固め食いをすることが多いため、罹患しやすい。また、分離しやすい混ぜエサも、選び食いしやすいので罹患に注意が必要だ。

◇第四胃変位の予防には

四変を予防するには、「草をきちんと食べさせる」ことが最も重要となる。四変には子牛も成牛も罹るが、子牛の頃から、「草を食べなければ美味しいもの(配合飼料など)は食べられない」と学習させ、草を食べてからでなければ配合飼料等は与えない、という順番を必ず守ることが肝要となる。学習させた後も、子牛も成牛も、きちんと草を食い込んでいるか、盗食等をしていないか、牛の様子をよく確認することが重要。

また、粗飼料摂取量不足は四変の最大リスクであるため、牛が食べない場



よく草を食い込む教育が徹底された牛たちの様子

北海道向けフェストロリウム 「ノースフェスト」手順書公開 植生悪化のチモシー草地で利用可能

農研機構は7月18日、「北海道向けフェストロリウム(ライグラス類とフェスク類を掛け合わせた雑種)品種『ノースフェスト』標準作業手順書」を公開した。同品種の越冬性や収量性、飼料品質などの品種特性や既存草地への追播利用などを中心に栽培方法を解説している。

◆ペレニアルライグラスは冬季の気



スマートフォン
をお持ちの方は
こちらから

象条件が厳しい道東地域では栽培が難しいため、越冬性に優れたノースフェスト(以下、同種)が育成された。同種は初期成育も良好なことから、部分的に草地を耕起して新たな牧草を播種して草地の植生と生産性を回復させる追播にも適した品種となっている。

◆牧草被度が20%程度に減少した道東(別海町)のチモシー草地に同種を追播した場合、播種後2年目以降の1番草・2番草で、既存のチモシーと合わせた牧草被度が70~80%まで回復した(図)。2ヵ年合計乾物収量は無追

合には、「なぜ食べないか」「原因は何か」を分析し、改善することが重要。摂取量が減る要因は、①分娩前の過肥②高エネルギー・低繊維質飼料の多給(ルーメンアシドーシスの誘発)③粗飼料の過細切④急激な飼料変更⑤低カルシウム血症による消化管運動低下、などがある。

これらの発生要因への対策としては、分娩前後の飼料摂取量の確保・第一胃の容積確保・日常の飼養管理で予防可能な項目の実施(過肥管理、ルーメンアシドーシス予防、カルシウムバランスの調整、飼料の急変回避)・分娩後のストレス低減や分娩環境の最適化で間接的リスクを下げる、といった取り組みが重要となる。

タンクのエサの量を把握しよう 夏場の凝固・変敗防止を目指して

近年の夏場の猛暑は異次元の暑さだ。このような条件の下では、飼料の変敗が起こりやすいため、なるべくタンク内の飼料の変敗による損失を減らすよう心がけたい。

☆エサの量をコントロール

なるべくタンクが定期的に空に近い状態になるようにし、牛が食べる飼料の量から逆算した飼料の発注ローテーションを組むことが効果的だ。タンク内の飼料が減っていくペースと量を把握することで、新しい飼料が届くまでに空に近い状態に持って行く。

☆固まる前にハンマーで叩こう

タンクの中が空に近い状態になったタイミングで、タンクを外側から叩き、エサが固まることを防止する。夏場は特に湿気が多く、飼料が固まりやすくなるが、「飼料のローテーションでタンクが空に近い状態の時期になったら、固まる前にハンマーで叩こう」と意識し、なるべく変敗を防いで飼料をムダなく牛に給与したい。

◇ポリアクリル酸ナトリウム水溶液投与の試み

NOSA I 北海道道南南部家畜診療所では、四変を発症した牛に、治療のために「ポリアクリル酸ナトリウム水溶液(飼料添加物など幅広く使用されている化合物)」500gを40℃程度のお湯15Lと混ぜたものを、従来の保存的治療法(高張食塩水の投与及び大量溶液経口投与法)と併せて投与したところ、診療費の減少や再発までの日数の延長を確認した。

現在も、手術を望まない症例や手術日を延期したい症例で、同水溶液を用いた四変の治療法は継続している。また、治療以外にも、四変を発病しそうな牛に予防的に投与している。

飼料タンク内のイメージ図

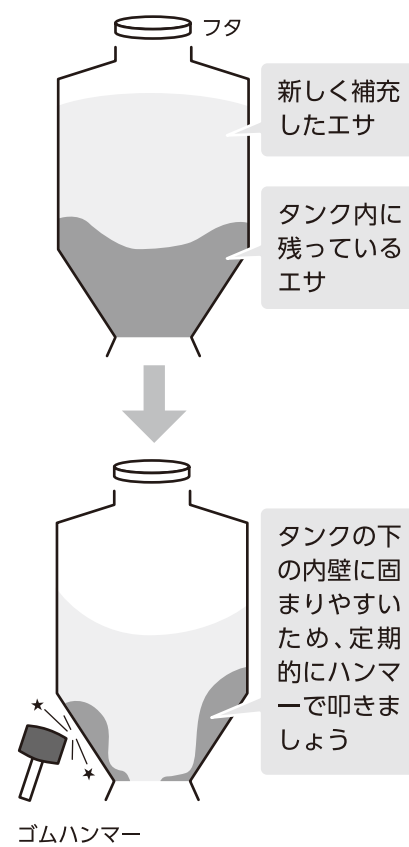
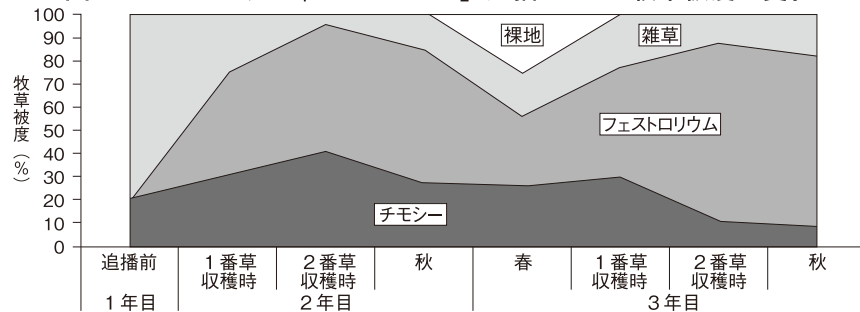


図 フェストロリウム「ノースフェスト」追播における牧草被度の変化



注) 牧草被度が20%程度のチモシー主体草地に、1 番草収穫後の7月上旬に作型型播種機により追播。雑草は、主としてケンタッキープルーグラスとシバムギ。

農研機構 北海道農業研究センターの資料から抜粋

播に比べてそれぞれ15%、16%増加し、生産性が回復する。また、飼料成分もTDN などが増加し、飼料品質が改善される。

◆コスト試算では、別海町の既存チモシー草地に追播を行ったところ、TDN 1kg当たりの生産費は、2年目以

降はTDN収量の増加に伴い、無追播より低くなった。同手順書は、QRコードから利用者登録(無料)またはログインをして誰でも利用できる。

なお、同手順書は北海道向けだが、同種は北海道以外にも、東北地方や一般地・西南暖地でも栽培が可能である。

農水省は7月25日、畜産統計（25年2月1日現在）を公表した。それによると、乳用牛・肉用牛ともに前年に引き続き、飼養頭数、飼養戸数のいずれも減少している。

〈乳用牛〉

全国の飼養戸数は1万1300戸で、前年に比べ600戸（5％）減少した（表1）。飼養頭数は129万3000頭で、2万頭（1.5％）減少した。1戸当たり飼養頭数は4.1頭（3.7％）増え、114.4頭となった。

飼養頭数の内訳をみると、経産牛は82万100頭で6100頭（0.7％）減少、未經産牛は47万2800頭で1万3600頭（2.8％）減少した。

成畜（満2歳以上の牛及び2歳未満

乳牛、肉牛の飼養戸数・頭数ともに減少続く 25年畜産統計 農水省

のうち既に分娩経験のある牛）飼養頭数規模別にみると、飼養戸数と飼養頭数はいずれも「80～99頭」及び「200頭以上」の階層で増加したが、それ以外の階層では減少した。規模別の構成比は、「200頭以上」の階層が飼養戸数では6.3％、飼養頭数では32.9％を占めている。

地域別にみると、飼養戸数は沖縄で前年並みとなったが、それ以外の地域では減少した。なお、地域別の割合は、北海道が飼養戸数では44.0％、飼養頭

数では63.2％を占めている。

〈肉用牛〉

全国の飼養戸数は3万4000戸で、前年に比べ2500戸（6.8％）減少した（表2）。飼養頭数は259万5000頭で、7万7000頭（2.9％）減少した。1戸当たり飼養頭数は3.1頭（4.2％）増え、76.3頭となった。

飼養頭数の内訳をみると、肉用種は185万1000頭で4万6000頭（2.4％）減少し、乳用種は74万3800頭で3万1300頭（4.0％）減少した。肉用種のうち、子

取り用めす牛は61万1400頭で2万9000頭（4.5％）減少した。

乳用種のうちホルスタイン種他は18万4400頭で2万3500頭（11.3％）減少し、交雑種は55万9400頭で7800頭（1.4％）減少した。

総飼養頭数規模別にみると、飼養戸数は「500頭以上」の階層で増加したが、それ以外の階層はすべて減少した。規模別の構成比は、「500頭以上」の階層が飼養戸数では2.3％、飼養頭数では45.1％となっている。

地域別にみると、飼養戸数、飼養頭数ともに、すべての地域で減少した。なお、地域別の割合は、九州が飼養戸数では43.5％、飼養頭数では36.9％で、ともに最も高い割合を占めている。

表1 乳用牛の飼養戸数・頭数(全国)

区 分	飼養戸数	飼 養 頭 数					1戸当たり 飼 養 頭 数
		計	経 産 牛			未經産牛	
			小 計	搾乳牛	乾乳牛		
実 数	戸	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	頭
24年	11,900	1,313.0	826.2	704.8	121.4	486.4	110.3
25	11,300	1,293.0	820.1	696.7	123.4	472.8	114.4
対前年比（％）							
25／24	95.0	98.5	99.3	98.9	101.6	97.2	103.7

ともに農水省の資料から

表2 肉用牛の飼養戸数・頭数(全国)

区 分	飼養戸数	飼 養 頭 数							1戸当たり 飼 養 頭 数	
		計	肉用種			乳 用 種				
				子取り用めす牛	肥育用牛	小 計	ホルスタイン種他	交雑種		
実 数	戸	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	千頭	頭	
	24年	36.50	2,672.0	1,897.0	640.4	841.6	775.1	207.9	567.2	73.2
	25	34.00	2,595.0	1,851.0	611.4	833.6	743.8	184.4	559.4	76.3
	対前年比(%)									
25／24	93.2	97.1	97.6	95.5	99.0	96.0	88.7	98.6	104.2	

注：数値については、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

節約志向から低価格部位の動きが好調

食肉業界の販売動向 日本食肉流通センター

（公財）日本食肉流通センターは6月4日、「食肉業界の販売動向について（25年6月報告）」を公表した。

同センターは、直近の食肉の販売動向について、食肉事業者の生の声を聞き、その概要を年3回定期的に報告している。今回は、25年1月からゴールデンウィーク（以下、GW）までの食肉販売動向を中心に聞き取りを行った結果を報告している。

【牛肉の販売動向】

和牛では、「比較的堅調な販売であった」という報告と、「動きが悪かった」という報告に分かれた。その中でも、「昨年末にひっ迫していたカタロースの動きがなくなった」「ロイン系

の動きは相変わらず鈍く販売に苦労している」「スネ、ブリスケ等の低価格部位の動きは引き続き好調である」という報告が多くあった。

消費者の節約志向を反映した商品・価格の設定の意識から、「和牛経産牛の飼い直しの引き合いが強くなっている」との報告が多く聞かれた。同様の理由と輸入牛肉の代替として「乳廃牛の牛正肉（ひき肉材）の引きが強く、注文に応えきれない状況である」という報告もあった。

また、輸入牛肉の相場高が続く中で、乳去勢牛の出荷頭数減少、交雑牛の相場高、和牛3等級の価格上昇などの状況により、需要者の販売戦略から、乳去勢牛から交雑牛へ、交雑牛から和牛

へのシフト、あるいはその逆のシフトも起きている模様。

○食肉事業者の主な声

①GWでは、和牛肉が飲食店向けで動いたが、百貨店で動きが悪く、ウチモモ、ソトモモ、サーロインが余った。サーロインは年末商品向けに凍結に回すとともに、それでも余るものは大幅な値引きをして売り切った。

②飼い直した和牛経産牛を求める注文が多くなって相場が上がっており、交雑牛より高い価格で購入して卸している。飲食店では手頃な和牛メニューを維持するために欠かせないらしい。

③乳去勢牛の頭数が減少していることから交雑牛にシフトしている得意先がある一方で、逆に交雑牛は相場高により販売力が低下しており、和牛に切り替える量販店も出ている。

【和牛肉需要拡大対策】

農水省は、24年度補正予算で予算額170億円と規模の大きな和牛肉需要拡大緊急対策事業を措置し、業界では和

牛の国内需要の停滞を改善するものと期待されている。聞き取りをした業者の中でも多くが事業を活用しており、「和牛相場の下支えになっている」などの意見があった。

○食肉事業者の主な声

①農水省の和牛肉需要拡大対策により得意先との商談が円滑に進み、新規顧客も出てきている。和牛肉の需要が拡大し、和牛枝肉相場の浮上効果がある。

②和牛肉需要拡大対策を活用している。昨年まではリブロースの販売に苦労したが、量販店との商談が進んで動くようになった。サーロインも、関西を中心とした外食チェーンからの大口受注があり、和牛の余剰部位はなく、不足状態である。

③和牛肉需要拡大対策のパーツ奨励金を活用して和牛の動きがよくなっているが、仕入れ値も上昇している。フルセットの奨励金にも取り組みたいが、得意先からはフルセットは捌き切れないと言われている。

中国への日本産牛肉輸出再開へ 新たな市場開拓に期待

政府は7月11日、中国政府から「動物の衛生及び検疫における協力に関する日本国政府と中華人民共和国政府との間の協定」（日中動物衛生検疫協定）の効力発生のために必要とされる、中国の国内手続きの完了についての通告を受領した。これにより、同協定は同日発効した。中国への日本産牛肉の輸出は実現すれば24年ぶりとなる。

同協定は、日本産牛肉の対中輸出再

開の前提となる。政府は、今回の発効を踏まえ、輸出の早期再開に向けて、中国政府と、関連の食品安全や放射性物質検査を含めた協議を引き続き推進していくとしている。

7月15日の会見で小泉農水大臣は、「実際の輸出再開までには中国側と協議を行う必要があり、輸出再開の具体的な時期については予断を持ってお答えすることは難しい」と説明している。

交雑種8ヵ月ぶり発動 牛マルキン6月分

農畜産業振興機構は8月7日、肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価（25年6月分、確定値）を公表した。

交雑種と乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。肉専用種は16都道府

で発動した。交雑種は、24年10月分以来、8ヵ月ぶりの発動となった。

交付金単価（1頭当たり）は、交雑種が6866.1円（確定値）、乳用種が2万7264.6円（前月は2万9549.7円、いずれも確定値）となっている。

前月分と比べ、交雑種は素畜費の増加に対し販売価格が減少したため発動、乳用種は販売価格が増加したため交付金は減額となった。

「夏の猛暑に、ヨーグルト。」 「水分保持」で熱中症予防

(一社)日本乳業協会は7月24～27日、六本木ヒルズカフェにおいて、ポップアップイベント「夏のヨーグルトLAB」を開催した。同協会が1月から実施している脱脂粉乳の需要喚起を目指すプロジェクトの一環で、脱脂粉乳を多く使用するヨーグルトの「水分保



配布された「むぎちょこ」・「マシュマロ+いちごジャム」など4種のヨーグルト

持」機能に着目した「夏の猛暑に、ヨーグルト。」プロジェクトの第一弾。

監修を務めた医師の谷口英喜氏によると、ヨーグルトを摂ると、血管中の水分を保持する「アルブミン」というタンパク質の合成が促進される。アルブミンが増えることで血管内に水分を多く蓄えることができ、熱中症や脱水症の予防に効果があるという。「1日2回(計200g程度)、朝・夜に分けてヨーグルトを食べて水分保持を」と呼びかけている。

初日にはキックオフイベントも開催。会場で配られるヨーグルトの紹介

左から元サッカー日本代表の内田篤人氏、フリーアナウンサーの菅見玲奈氏、お笑いコンビのアンガールズ



左：ポップアップイベント会場外観、右：親子連れなどで賑う会場内の様子

が行われた。

ポップアップイベントの会場では、4種類のヨーグルトの試食が行えるほ

か、ヨーグルトが猛暑対策として効果的な理由を学べるクイズも出題され、会場は約1万人の来場者で賑った。

牛枝肉

F₁・乳用種は強もちあいでの動きが続くか

猛暑と物価高が続き、なかなか牛肉の消費が伸びない。F₁は和牛の代替需要で、乳用種は輸入の代替もあり、それぞれ強もちあいが続くそう。

【乳去勢】7月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、1224円(前年同月比120%)となり、前月より23円上がった。

8月に入っても上場頭数は伸びず、相場も1200円前後の動きとなっている。もちあいでの推移か。

【F₁去勢】7月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B3が1609円(同103%)、B2が1449円(同107%)だった。前月に比べ、B3が64円増、B2も26円増と、強含みでの推移となった。

8月に入ると、出荷頭数は前年並みで、B3で1600円台での推移で強もちあいの展開となっている。

【和去勢】7月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2155円(同109%)、A3が2002円(同110%)だった。前月に比べ、A4が54円上がり、A3も22円上がった。

8月に入ると、A4で2100円台での推移となっており、頭数は減少する見込みだがもちあいでの、秋口までは大きな動きはなさそう。

【出荷頭数】8月の出荷頭数は、和牛3万7100頭(同96%)、交雑種1万9300頭(同101%)、乳用種2万2000頭(同90%)と、和牛・乳用種はやや減少する見込み。

【輸入量】農畜産業振興機構は8月の冷蔵・冷凍品の輸入量を総量で4万2800t(同88%)と予測。内訳は、冷

蔵品1万5300t(同96%)、冷凍品が2万7500t(同84%)。ほとんどの輸入先で、前年を下回ると予測される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が1150～1250円、F₁去勢B4が1650～1750円、同B3が1550～1650円、同B2が1450～1550円、和牛去勢A4が2100～2200円、同A3が1950～2050円での推移か。

豚枝肉

出荷頭数増も、猛暑が続く大幅な下げはない

7月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物866円(前年同月比104%)、中物は836円(同104%)となった。前月に比べ上物が71円、中物も67円の上昇となった。前年より900円台の日数が増えることとなった。

8月に入ると、上物で700円台から600円台へと下がる動きとなってきた。農水省の肉豚生産出荷予測によると、8月は129万頭(前年同月比106%)

畜産物需給見通し

と、頭数が少なかった昨年より増える予測となっている。しかし、記録的な猛暑が続いており、出荷頭数が予測より減少する可能性もあり、品薄感に残りそう。

農畜産業振興機構の需給予測によると、8月の冷蔵・冷凍品の輸入量は総量で8万500t(同96%)と、前年より減少する見込み。内訳は、冷蔵品3万3700t(同121%)、冷凍品5万4400t(同93%)。冷凍品は、国内の輸入品在庫が多いことなどにより減少が見込まれる。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、昨年ほどの高値は期待できないが、上物が650～750円、中物が600～700円と、大幅な下落はないと見込まれる。

素牛 スモール

スモール頭数が増加に転じて、相場も下降傾向

【スモール】7月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が21万9553円(同109%)、F₁去勢は42万4025円(同129%)だった。前月に比べ乳去勢は2万1791円増、F₁去勢も1万7564円上がった。

乳去勢・F₁ともに、これまで相場は続伸していたが、頭数が増加に向かいだしたことで、下降傾向になってきた。

これまで高騰していたため、ある程度下がるが、極端に増頭するわけではないので、昨年末のような低価格になるとは考えにくい。

【乳素牛】7月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が21万9553円(同109%)、F₁去勢は42万4025円(同129%)だった。前月に比べ乳去勢は2万1791円増、F₁去勢も1万7564円上がった。

乳去勢・F₁去勢ともに、7月は前月より頭数は減少しているが、スモール同様、あと数ヵ月で頭数増となる。

【和子牛】7月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、70万1618円(同124%)で、前月より3349円上がった。

7月の上場頭数は、前月とさほど変わらず、今後も頭数はやや減少傾向だが、枝肉価格の伸び悩みで、相場は弱もちあいの展開か。

7月の子牛取引状況 (頭、kg、円)									
ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	544	636	315	318	223,488	198,405	709	624
	F ₁ 去	1,985	2,121	339	342	429,871	402,599	1,268	1,177
	和去	3,328	2,446	344	343	779,528	752,028	2,266	2,193
東北	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	5	3	320	237	340,560	183,333	1,064	772
	和去	2,529	2,618	328	335	645,177	638,875	1,964	1,909
関東	乳去	2	3	230	278	133,650	104,867	581	377
	F ₁ 去	124	149	359	355	406,556	398,075	1,133	1,120
	和去	740	1,053	334	340	712,867	729,960	2,135	2,146
北陸	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	2	—	307	—	323,950	—	1,055	—
	和去	53	166	293	318	607,843	632,096	2,075	1,989
東海	乳去	1	—	144	—	69,300	—	481	—
	F ₁ 去	60	68	343	338	400,473	396,242	1,167	1,171
	和去	399	196	291	277	688,118	707,732	2,363	2,551
近畿	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F ₁ 去	1	—	205	—	235,400	—	1,148	—
	和去	368	362	264	271	976,292	970,115	3,696	3,579
中四国	乳去	40	49	293	304	176,055	196,137	600	645
	F ₁ 去	324	264	341	337	414,208	422,404	1,213	1,253
	和去	798	824	319	317	656,423	645,911	2,059	2,038
九州・沖縄	乳去	3	1	309	287	193,233	147,400	625	514
	F ₁ 去	240	315	337	336	403,113	427,397	1,196	1,274
	和去	7,294	8,230	306	313	677,488	691,525	2,213	2,208
全国	乳去	590	689	313	316	219,553	197,762	701	626
	F ₁ 去	2,741	2,920	340	341	424,025	406,461	1,247	1,192
	和去	15,499	15,895	319	322	701,618	698,269	2,199	2,169

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。
価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。—は上場がなかったことを示す。
関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。